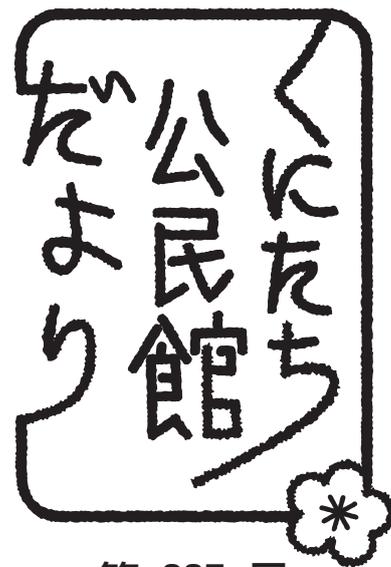


(1)



第 685 号

2017年 3月5日

(平成29年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

### 〈講座参加者の声〉 学び・実践しつづける

#### 「フードバンクという 挑戦」講座を受講して

もんま たいき  
門前 大記

2016年7月に公民館主催で大原悦子先生を招いた「フードバンクという挑戦―貧困と飽食のあいだで―」というタイトルの講座を受けました。

フードバンクとは、ズバリ食料銀行という意味があり、企業や農家、寺、個人から食品の寄贈を募り、支援団体や施設を通じて必要とされる人に届ける取り組みです。こうした取り組みは、包装に問題があったり、規格外品という理由



収穫されたトマトたち

で、まだ十分に食べられる状態の製品でも廃棄される食品、すなわち「食品ロス」を減らすということにもつながっており、積極的に協力する団体・企業が年々増えてきているといえます。もともとは米国から始まった活動ですが、日本では2002年頃に「セカンド・ハーベストジャパン」という団

体から本格的に活動が始まり、その後NPO法人や学校法人など、さまざまな団体が各地に立ち上がって13年に合計5000トンを超す食料を届けるようになったとのことです。私がフードバンクに関心を持ったのは、2015年の春にフードバンクの多摩地区の配送をお手伝いさせていただいたときからです。その際、必要としている方々に届ける人、受け取る人も、高慢な態度や卑屈な態度ではなく、「すみません」から「ありがとう」に変わり、安心してSOS発信者との信頼関係を築きあげておられるフードバンクに関わる方々の、姿勢と努力に感銘を受けました。そこで私も家庭菜園で収穫した野菜を何か役に立てられないかと思ったのです。私は市内に2ヶ所の畑を借りていて、主にミニトマト（今年は1万6000個収穫）を作っています。この講座を受講

して、フードバンクでは残念ながら生鮮食品は対象外になることが多いことがわかりましたが、講座の中でグループに分かれて話し合う機会があり、さまざまなボランティア活動をしている方と知り合うことができました。そうしたつながりから、この夏（7～8月）は市内の子ども食堂や高齢者の居場所や集会所となっているところなどへ届けることができました。今年の夏もおいしい七色のミニトマト作りをして皆様と元気に笑顔でお会いすることを楽しみにしています。

#### 近くて遠い国ロシア

大貫 佐知子

ロシアと聞いてイメージする事は何だろうか？ 大国？ 暗い国？ 怖い国？

地図で見ると、日本の隣の国なのに私達は一体どれだけのことを知ってるだろうか。

今回は「ロシアを知る」というテーマで、様々なジャンルの講師を招いての連続講座だった。募集してすぐにいっぱいになったとか。「ロシアのことを知りたい」という思いを同じくする人がこんなに



ロシアパレエに見惚れながら……

沢山いた事にまず驚かされた。第1回目は「ロシア／ソ連とはどういう国か」講師は塩川伸明先生。

まず最初に、この広大で複雑な大国ロシアの事は、たった2時間ではとても語りきれないと述べられたが、ロシアと日本を比較しながら、二面性と逆説性という2つのキーワードで分かりやすく解説をして下さった。

また、「……西欧に憧れ、挫折し傷つき……その痛ましさに共感し、関心を持ち続けよう……」というアンドレジッドの言葉（『ソヴェト旅行記修正』）を引用し、現代のロシアについて考える上でも示唆的だと述べられた。特に、同じく欧米を目指して追いつき追い越せとやって来た戦後の日本とロシアは何処か似ていると言っ指

＊ 講座参加者の声 ＊

摘は興味深かった。

第2回目は「政治とバレエ」。講師は村山久美子先生。ロシアという「白鳥の湖」などの古典バレエがまず思い浮かぶ。今やバレエ大国と言われるようになったロシアだが、今のクラシックバレエの形式になったのは西欧よりもかなり遅れて、18世紀以降とは意外だった。またロシアのバレエは踊り自体のフォームの美しさが際立っている古典バレエより、むしろ伝統的に重視してきたのはドラマとしてのバレエだそう。

最終回は現代のロシア文学について。講師は沼野恭子先生。沼野先生のお話は現代ロシア文学をリズムや未来小説まで5つのジャンルに分け、時間をオーバーしても語り切れないほど沢山の作家や作品を紹介して下さいました。読んだことのある作品も1、2冊あったが、殆ど知らない作品ばかり、どれも大変興味深かった。機会があれば、是非読んでみたいと思う。ところで、事前に予習しようとして、図書館や書店で探したが、あまり現代ロシア文学の本は置いて無かった。出版されているものでも、店頭には殆ど無くて取り寄せないと手に入らない。文学コーナーでも本棚に並んでいるのは相も変わらず、ドストエフスキーやトルストイばかり。



公民館図書室のロシア文学コーナー  
ぜひご覧ください

今まで、ロシアとはこんな感じ。と固定観念で見ていたような気がする。今回の連続講座をきっかけにして、もっとロシアの事を深く知りたいと思った。さらに違う分野のお話も聞きたいので、ぜひ、今後も講座の続編を望みます。

恋愛と結婚、現実と

真理を見つめ直す

紅林 ユリエ

10代の頃に比べて、結婚とは何かについて考える機会が増えた。

結婚とは、恋愛とは何なのだろうか。今回の講座ではそういった普段素通りしてしまうような疑問に、



白熱するディスカッション!

恋愛とは? 結婚とは?

改めて向き合うこととなった。小さな頃、大人になったら皆と同じように、自分にもパートナーができて、その人と結婚して家族を作るといことが、自然と行われるものだと思いついてきた。しかし実際は、恋愛をしても、その相手と両思いになれるかは別であったし、仮にカップルになったとしても、理想の結婚相手かどうかも別であり、そもそもカップルになれたからと言って結婚できると確約されるわけでもなかった。

こういった当たり前のことには、高校生になった頃、自分の心身で理解できたが、一方でまだ高校生

という将来をシリアスに見つめようとしていなかった身であったため、むしろそういった「現実」或いは「真理」は、自由闊達な恋愛を生み出せるメリットもあると感じていた。しかし大学に入り、様々な社会の知識や考え方が、一気に流れ込んでくる過程で、その「現実」・「真理」が、脱け出すことが非常に困難な重い枷のようなものだと感じるようになってきた。例えば、日本ではまだまだ結婚に対する固定観念が根強く、女性が30歳を過ぎて未婚なのはおかしいという考え方が、中高年を中心として根付いている。

こういつた固定観念が渦巻く環境の中では「自分の人生を謳歌しながら、幸せな結婚がしたい」という漠然とした抽象的な希望も抱いていられない。具体的な構想と対策を練って実行しなければ、焦燥感を煽られてしまう。そういった状況から、講座に参加することに至った。

講座では、より細かく現代の恋愛観や結婚観についてのデータを分析し、具体的な理論や手法について、学ぶことができた。参加者との議論によって、同世代の考え方も知り、非常に有意義なアクテ

この機会を通して私は希望に満ち溢れ、前向きになれたかと言え、決してそうとは言えないが、少なくとも恋愛や結婚にこそ「対話」を深く丁寧に行うことが重要なのだと、改めて気づかされた。講座での学びを生かすつもり、やはり自分のために他の誰でもない自分自身で実践し続けなくてはいけないのだと覚悟を決めることができた。

私は現在3人の子育て中なので、実際に被災経験があり、現在子育て中のあんどろりさんが提案している「アウトドア流防災」というものに興味がありこの講座を受講しました。受講前までは「アウトドア」程度で「防災」にどこまで役立つのかな?」と思っていました

「子育て世代の  
防災講座」を受講して

天田 郁子

自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり、



大切なのは、仕組みを知っておくこと



古武術の技を使って倒れた人を簡単に起こせました

が、講座のお話を聞いていて雪山登山も含めたアウトドアだったことに「アウトドア流防災」という提案に納得してしまいました。  
 防災に重要な事と雪山登山も含めたアウトドアに重要な事の共通項の多さ(防寒対策、荷物の軽量化など)、アウトドアの世界では常識的な事が、いざという時にとても大切な事だと教えていただきました。  
 防災グッズはわざわざ用意するのではなく、普段使っている物、特に子育てグッズをいざという時に防災グッズとして使えるようにする知恵、その時にアウトドア用品が便利で使いやすく、普段使いにもできるおしゃれな物が豊富なことなど、実際に私物を紹介していただきました。  
 他にも災害用トイレやおむつなど、大切なものは代用品の作り方(マニュアル)を知ることではな

く、仕組み(原理)を知ってそれを作り出すことで、代用品は無数に作り出せるというお話を聞き、普段の生活の中でも「この代用品は作れるかな?」と仕組みを考える良いきっかけになりました。  
 また子育て世代ということで、避難する場合も常に子どもと一緒にです。子どもの年齢にもよりますが、親が子どもと荷物を抱えて逃げる場面が多々あります。その時に「軽く」感じるかで負担が軽減されます。その「軽さ」は重心を上に上げる事、揺れない様に密着させること。そこで昔ながらの「さらし」で作るおんぶ紐でおんぶすることで、重心が高くなり子どももしがみついてくれるので密着し負担が軽減されるそうです(この方法で中学生が大人をおんぶできるそうです)。このさらしでのおんぶは、その場で体験もさせてもらえました。

2時間という短い時間の中で、駆け足でしたが身近な危険個所のチェックポイント、子育てグッズを防災グッズにする知恵、防災に役立つアプリの紹介、防災に役立つアウトドア用品の紹介など沢山の貴重なお話が聞けて大変良かったです(時間が足りなくて「もっと聞きたい!」と思ってしまうました)。  
 私も自分のできることから少しずつでも取り入れていこうと思いました。

—公民館・ボランティアセンター共催—  
**まちで知る・見る・シェアする  
 防災への備え**

- コーディネーター 井上 浩一(防災ネットワークプラン)  
 事例発表① 国立市ボランティアセンター  
 「防災まち歩き(東地区)」  
 事例発表② KUNIBO(くにたち地域外国人のための防災連絡会)  
 「外国につながる市民と共に学ぶ・つながる」  
 事例発表③ 教会通りの会(中地区)  
 「向こう三軒両隣 防災助け合い活動」

東日本大震災から6年、阪神・淡路大震災から22年。大震災や災害への備えとして、私たちの住むまちのこと、防災のこと、改めて確認してみませんか。防災情報を知ること、実際に見たり、地図にしてみる。それを地域の市民同士で共有すること。こうした地域のさまざまな取り組みをご紹介いただきながら、防災への備えについてみなさんと考えたいと思います。防災備品の試供品も配布します。

とき 3月25日(土)朝10時~昼12時  
 ところ 公民館 地下ホール  
 定員 50名(当日先着順)※申し込みは不要です。  
 呼び掛け KUNIBO(くにたち地域外国人のための防災連絡会)/国立会中の会/教会通りの会(中地区)/公民館利用者連絡会/公民館交流会準備会

**子どもたちにも災害時のチエを!**

昨年12月17日(土)に行った「冬休み直前 ふれあいひろば」でも、地域で活動している方々にご協力をいただき、子どもたちも災害時のチエを学びました。



身近なものを使った手当て



ポリ袋を使った防災食づくり



作ったあとはみんなで試食

## 〈男性の料理入門 春休み特別企画〉 子どもと作る のっけオムライス!

春休みのお昼ご飯を、お父さんと一緒に作ってみよう!今回はみんなが大好きなオムライスにチャレンジします。ふわっとした卵をのせることがポイントです。その他、キノコとレタスのスープ、ポテトサラダ、バナナデザートも作ります。

講師 北川 みどり (管理栄養士)



とき 4月1日(土)朝10時~昼1時

場所 福社会館 3階料理講習室

定員 親子8組(お祖父さんでも可)(申込先着順)

費用 1組(子ども1人まで)1,300円

(子ども2人まで)1,500円

(子ども3人まで)1,600円

3月25日(土)までに公民館へお支払ください(受付時間:月曜日以外の朝9時~夕5時)。当日払いはできません。食材購入後のキャンセルは実費をご負担していただきます。

持ち物 エプロン、三角巾(タオル可)、筆記用具、ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)、ふきん(台ふき用、皿ふき用)

申込先 3月8日(水)朝9時~

公民館☎(572)5141

〈図書室のつどい〉

## 地域再生の学びを拓く

—人口減少社会における『地域学習の創造』—

お話し 佐藤 一子<sup>かつこ</sup>(東京大学名誉教授)

人口減少社会が到来するなか、近年「地方消滅」や「消滅可能性都市」の問題が指摘されています。その一方で、地域の住民が主体となり、「地域で共に学ぶ」「次世代・後継者を支援する」「他の地域と交流する」など、参加と交流活動をともなう学びが、全国に広がっています。

佐藤一子さんは、こうした地域再生・課題解決の方途を探り、「維持可能な地域」を追求する学びと実践を、「地域学習」としてとらえ、その意義を提起しています。

佐藤さんには、昨年3月の〈社会教育学習会〉でのお話に続き、「市民の学びのいま」を、また違う角度からお話いただきます。

〈佐藤さんの本〉

『地域学習の創造』(編著)、『イタリア学習社会の歴史像』、『生涯学習と社会参加』(以上、東京大学出版会)、『地域文化が若者を育てる』(農文協)ほか多数。

とき 3月28日(火)夜7時~9時

ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)

※申し込みは不要です。ご自由においでください。

## 版画をつくってみよう! —プレス機体験ワークショップ—

プレス機を使って、本格的な版画を体験してみませんか?紙の版(ドライポイントプレート)とプレス機を使って版画を作ります。紙の版に、線を描いたり、切ったり、はがしたりして、インクを詰めて刷ると、銅版画のような作品ができ上がります。

講師 タダ ジュン(イラストレーター・版画家)

さかた きよこ(版画家)

山本 佳奈枝(版画家)

とき 3月19日(日)昼1時~4時(受付は3時まで)

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

定員 30名程度(当日先着順・入替制)

材料費 200円

持ち物 エプロン(よごれてもよい服装)、

ハガキサイズぐらいの下絵(なくても可)

※所要時間は1時間程度です。事前申し込み不要。ただし、定員を超えた場合は、締め切らせていただきます。

同時開催!

## 「はじめての銅版画」展

創作講座「はじめての銅版画—Etching Work Shop—」(1月~2月、全4回)の作品展を行います。一人ひとり個性豊かな作品ができました。ぜひ見に来てください!

とき 3月14日(火)~19日(日)最終日は夕5時まで

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

問合先 公民館☎(572)5141

## 「戦争は庶民も加害者にする 三多摩での米軍機搭乗員虐待事件」 —国立に落ちたB29の搭乗員はどうなったのか—

講師 檜崎 茂彌<sup>しげや</sup>(元高校教諭、  
多摩地域の戦時下資料研究会会員)

第二次世界大戦中、三多摩地域には11機の米軍機が墜落し、76名の搭乗員が墜落死しました。生存者のうち15名が捕えられ、そのなかには虐待を受けた者も少なくありませんでした。

目撃者などの証言を集めて製作されたビデオ『戦争は庶民も加害者にする 三多摩での米軍機搭乗員虐待事件』を観ながら、私たちが暮らす地域で起きた歴史を知り、平和について考えます。

とき 3月19日(日)昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(申込先着順)

申込先 3月7日(火)朝9時~

公民館☎(572)5141

# 忘れられた画家

—抽象表現主義前夜の「美術」をめぐる—

講師 **長名 大地** (一橋大学大学院生\*)

第二次大戦後、美術の中心はパリからニューヨークへ移ります。以降、一見するとペンキを撒き散らしたような絵が、新しい芸術として価値付けられたことは、よく知られるところ。しかし、その前史にどんな絵が評価されていたかを知る人は少ないでしょう。この講座では、戦時中に活躍した二人のアマチュア画家に注目します。彼らは晩年になってから独学で絵を描き始め、すぐさま脚光を浴びた特異な存在でした。しかし、戦後の潮流に乗ることなく、忘れ去られます。誰が、何が、美術を美術たらしめるのか？ 絵を「美術化」させる作用に注目します。初回はモリス・ハーシュフィールド、2回目はジャネット・ソールという、知られざる二人の画家を取り上げます。

とき 3月26日、4月9日(全2回)  
いずれも日曜日、昼2時~4時  
ところ 公民館 3階講座室  
定員 35名(申込先着順)  
申込先 3月9日(木)朝9時~  
公民館 ☎(572) 5141

### \*一橋大学大学院生による講座

国立市内の一橋大学では、研究者を目指す大学院生が日夜研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を企画しました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。

**公民館運営審議会報告**  
2月14日(火) 第4回定例会を開催。委員11名、教育長、館長、職員2名が出席。傍聴3名。教育長と公民館館長人事についての意見交換  
「市民にとって望ましい館長」について、各委員が意見を述べた。非常に大切な人事なのでぜひとも相応しい人を推薦してほしい旨を伝えた。教育長も理解を示す。  
**前回議事録確認**  
**協議事項**  
館長及び職員の人事について、各委員の様々な意見が交わされ、国立市公民館処務規則第3条に伴い、次回定例会を3月30日(木)に変更する案が承認された。

**報告事項**  
○公民館だより編集研究委員会  
1月号 市民と公民館の共同企画である映画と学習会「認知症とともに生きる」は、多くの方が参加評判が良く続けて欲しいという意見。  
2月号 国立市史は、未来への提言にも触れられており、とてもよい。今後も繰り返しやってほしい。  
○社会教育委員の会  
諮問に対する答申の文章化の詰めをしている。  
○東京都公民館連絡協議会  
今後、研究大会の記録を作成中。  
○社会教育学習会  
30期答申の具体化についての提案。  
次回定例会は3月30日(木)夜7時15分から。傍聴歓迎。(高木)

シネボックス シネマトーク  
《シリーズ「ニッポンの記録映画」Vol.45》  
『季節、めぐり それぞれの居場所』  
2012年 大宮映像製作所 カラー 82分

監督・企画・製作 大宮浩一  
取材ディレクター 北里宇一郎 撮影 山内大堂

理想の介護を実現しようとひたむきに奮闘する若者たちの姿を描いた『ただいま それぞれの居場所』。この作品で平成22年度文化庁映画賞を受賞した大宮浩一監督とそのスタッフが、再び〈介護〉というテーマを描いた秀作。

老人たちの人生最期の時間を共に過ごすことで、〈老い〉や〈死〉と向き合いながら〈生〉を見つめ直していく若い介護スタッフたちの葛藤や家族の想いを、めぐる季節の中で、やさしく、あたたかく、見つめていきます。

〈シネマトーク〉

### 「介護は躍る」

伊藤 英樹 (NPO法人「井戸端介護」理事長)  
聞き手 北里宇一郎 (取材ディレクター)

映画の上映終了後、作品中に登場する介護施設、NPO法人「井戸端介護」の理事長・伊藤英樹さんに、介護施設の現状などについて、お話をお伺いします。

とき 3月26日(日) 昼2時~(開場: 昼1時)  
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)  
※申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

### 「公民館の窓」 認知症とともに生きる

1月20日、27日「認知症とともに生きる」をテーマに、ドキュメンタリー映画上映会と市民の介護経験を聴く・語る会(写真)を開催しました。公民館と市民の実行委員会が話し合いを重ねて、ともに企画・準備していく新しい取り組みでしたが、大きな反響がありました。  
上映作品は『毎日がアルツハイマー』。認知症の母、介護する娘の日常を描いたドキュメンタリーです。90名を超える参加者からは、それぞれの介護経験を重ねた感想がアンケートに多く寄せられました。その一部を紹介します。



「暗くならないで前向きな気持ちでかかわるのが良いのだと思った」「多幸症ということは印象に残りました」「認知症はこわくない？毛嫌いだけでなく自然に受け入れる方法、やり方を考えていきたい」「認知症の状態も見方を変えれば良いこと」。  
また、「先進的な実践をしている介護施設のことも学びたい」という声も寄せられました。  
3月のシネボックスは介護をテーマにしたドキュメンタリー映画上映と、介護施設職員のお話が企画されています。介護や認知症の問題は誰もが避けて通れない時代。ぜひみなさんとともに学び合いを続けていければと思います。(K.I)

# 公民館の会場予約のご案内

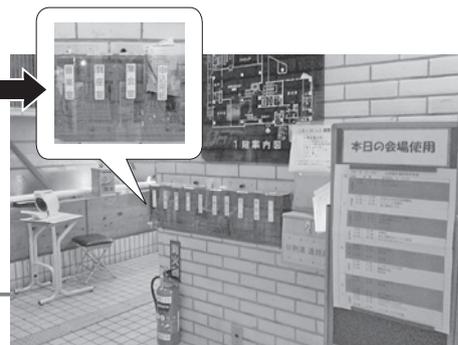
## —会場調整会—

公民館の会場をより多くの団体が公平に利用できるよう、会場調整の場を設けています。

会場調整会に参加する場合は事前の申し込みが必要ですので、下記の手順をご確認ください。なお、会場調整会に参加しなかった場合も、空いている時間帯の会場は公民館の窓口で予約することができます。

### 1 「公民館会場等使用調整会参加申込書」の提出

公民館1階入口正面にある会場別ポストに参加申込書を投入する。  
ポスト投入期限は原則、調整会直前の木曜日までです。



入口正面にあるポスト  
参加申込書はこちらへ

### 2 会場調整会への参加

会場調整会は毎月第1土曜日（祝日の場合は翌日）午前10時～、地下ホールにて開催しています。

使用希望が重なっているときはお互いに話し合い、調整を行います。

重なっているグループが調整会に参加しなかった場合は、使用希望は取り消しとなります。

### 3 本申込による予約の確定

調整の結果は仮予約です。調整会の場で本申込ができます。

本申込は会場調整会から10日以内にしてください。10日を過ぎると仮予約は無効になります。

### 4 会場調整会後の予約方法

会場調整会に参加しなくても、調整会当日の午後2時から、2階事務室で空いている会場の予約を受け付けます。  
また、午後3時から電話での仮予約を受け付けています。

\* 詳細や不明な点は、公民館までお問い合わせください。

\* 会場調整会は、公民館利用者連絡会のご協力によって実施しています。

### ■今後の会場調整会の日程（※印は締切りが早まっています。ご注意ください）

使用希望月	ロビー使用希望月	申込書のポスト投入期間	会場調整会
29年5月	29年6月	3月4日(土)～3月30日(木)	4月1日(土)午前10時
29年6月	29年7月	4月1日(土)～4月30日(日)※	5月6日(土)午前10時
29年7月	29年8月	5月6日(土)～6月1日(木)	6月3日(土)午前10時
29年8月	29年9月	6月3日(土)～6月29日(木)	7月1日(土)午前10時
29年9月	29年10月	7月1日(土)～8月3日(木)	8月5日(土)午前10時
29年10月	29年11月	8月5日(土)～8月31日(木)	9月2日(土)午前10時

# ひろば

(8ページにもあります)



## 太鼓たたいて健康に！会員募集

主にアフリカ起源の太鼓をたたいたり冥想をして、心身のバランス回復、認知症予防、ストレス発散しています。楽器はこちらで用意、初心者歓迎。たたいて健康

日時 月曜日不定期昼1時半  
場所 郷土文化館  
連絡先 末兼080(340) 0808

## 「国立練功会」会員募集

気功体操と24式を中心に、初心者を対象として、楽しく太極拳をしています。初めての方でも安心して学べますので、是非体験してみてください！

日時 毎週火曜日朝10時～12時  
場所 矢川集会所  
連絡先 長谷川090(830) 7254

## ダンスサークル Dreamsplash

新規会員募集のお知らせです。ヒップホップのダンスで、リズム感や身体の使い方を学びませんか？対象は年長さんから中学生まで(2チーム)。体験料1回500円。

日時 土曜日夕4時～、5時半  
場所 矢川集会所  
連絡先 米永090(104) 5475

## 社交ダンスを始めたい方募集

生き生きとした生活と健康づくりのため早速始めませんか。火曜日のコースの他に毎週日曜日光プラザで朝11時半からのコースあり。費用1回500円 社交ダンス絆

## 和気あいあいF1テニスクラブ

初心者も上手な人も楽しくテニスをして！これをモットーに毎月2～3回程度、コート狭しと駆けずり回っています。お花見、夏合宿麻雀大会などのお楽しみ企画も。

日時 隔週土曜日か日曜日2時間  
場所 谷保・矢川・広場コート  
連絡先 上林(57) 2806

## 水泳会員募集 アクアクラブ

寒い朝のひととき。目の前には暖かい春の息吹が聞こえてきます。さあ、4人のコーチの指導を受け、一緒に健康を目指して楽しく泳いでみませんか。

日時 毎週金曜日朝10時～12時  
場所 総合体育館 室内プール  
連絡先 佐藤(576) 4035

## ターゲットバードゴルフ

一本のゴルフクラブで羽根付ボールを打ち、18ホールのコースを廻るニュースポーツです。ナイスショットの爽快感を楽しみませんか。「体験者講習会」開催致します。

日時 毎週木曜日昼12時～3時  
場所 谷保第三公園 野球場  
連絡先 岡田(575) 1358

先月2月5日号に掲載した「サークル訪問」は、校正作業の不手際から、執筆者の意図と異なる文章を含んで掲載してしまいました。関係者の方々に心よりお詫びするとともに、改めて、記事原文を掲載いたします。

公民館

## 花のゆりかご 会員募集

プロ歌手の指導による発声とカラオケ練習。歌だけでなく普段の会話の声も活き活きとします。お仲間と明るく楽しく歌を唄いませんか。初心者大歓迎。

日時 第一、三木曜日昼2時  
場所 公民館 音楽室  
連絡先 林080(436) 8033

## 植物画「スイートピー」の御案内

花によって季節を感じながら、顔彩・水彩絵具で描いております。技量に応じて初心者からやさしく指導され、楽しく花を描く仲間です。見学歓迎。

日時 月2回水曜日昼1時半  
場所 芸小ホール アトリエ  
連絡先 安井080(528) 2658

## 中国語会話サークル 会員募集

中国人教師の指導で中国語の発音表現や文章の読み方等を通して中国の文化や歴史を楽しく学んでます。月会費3千500円。見学者歓迎。

日時 毎週金曜日夜7時～8時半  
場所 公民館 集会所  
連絡先 和泉090(793) 4303

## 〈サークル訪問305〉 沙翁塾

「沙翁塾」は、「塾」とはあるが指導者のいない、学び合いの塾である。昨年没後四百年を迎えた英国の劇作家シェイクスピアの作品を味わうサークルだ。一年に一冊、今は『ヘンリー五世』を読んでいる。

毎週金曜の朝10時、メンバーが各自で選んだ原文書籍を持ち寄り、毎回百行ほどを取り上げる。

和気あいあいと進められる活動は、こんな感じだ。まず、テープでネイティブスピーカーの役者の声を聞く。次に台詞ごとに順番に英語で回し読みする。次に均等な行数を日本語に訳していくが、この時、各自の本の訳文や注釈を紹介し合うことで、行間をより深く味わうことができるという。次に、今度は各自に役を割り当てて再び声に出して読む。最後に同じシーンを演劇ビデオで鑑賞する。こうして一冊を読み終えらると、各自お気に入りの台詞を暗記し発表するなどして、一年を締めくくる。

公民館で活動を始めたのは14年前、以来メンバーが入れ替わりながらも沙翁塾を続けてきた。現在のメンバーは女性六人。多



それぞれの役に成りきって

感な時期に演劇「ハムレット」やオリビア・ハッセーが演じた映画『ロミオとジュリエット』に出会ったこと、仕事が一段落し何か始めようと思った時に募集を見て、あるいは誘われて参加し、韻を踏んだ心地よい英文や登場人物の間模様ハマってしまつたなど、沙翁(シェイクスピアの当て字)との出会いは様々だ。

みなさん、一人では続けられないがこうして過ぎる三時間はあつという間で楽しいと、異口同音に言われるのが印象的だった。

この四月からは、『アントニーとクレオパトラ』に取り組み予定。老若男女を問わずメンバー募集中、気軽に見学を、とのこと。

連絡先 川越(573) 3695  
〈文・写真 隈井裕之〉

今月の公民館 (3月、4月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 14日(火) ~ \* 「はじめての銅版画」展
- 19日(日) 昼 戦争は庶民も加害者にする  
三多摩での米軍機搭乗員虐待事件
- 19日(日) 昼 \* 版画をつくってみよう!  
—プレス機体験ワークショップ—  
防災への備え
- 25日(土) 朝 \* まちで知る・見る・シェアする  
シネボックス CINEVOX 公民館シネマトーク  
『季節、めぐり それぞれの居場所』
- 26日(日) 昼 ~ 忘れられた画家  
—抽象表現主義前夜の「美術」をめぐって—
- 28日(火) 夜 \* 図書室のつどい  
地域再生の学びを拓く  
—人口減少社会における『地域学習の創造』—
- 4月1日(土) 朝 男性の料理入門  
子どもと作る のっけオムライス!

ひろば

(7ページにもあります)



ピースリーディング結(ゆい)

平和を考える朗読をしてみませんか。非戦を選ぶ演劇人の会が今年も全国各地でのリーディングを呼びかけています。国立ではワークショップ形式で実施します。

日時 3月5日と12日朝9時  
場所 公民館 ホール、集会室  
連絡先 阿部 (576) 1726

くにたち国際友好会 WING

フランス・スイス海外調査報告です。リヨン・ストラスブール等中近世に栄えた都市紹介を主に一橋大生関戸陽美、岡本尚樹、中森香音、宮田将季の4氏が行います。

日時 3月16日(木)夜6時半  
場所 一橋大学 国際交流会館  
連絡先 和田 (349) 2110

アジアの記憶を地域で紡ぐ

わが町シリーズ①国立町の「浄化」運動 私たちに、渡されたものは何だろうか? 映画・町の政治・べんきようするお母さん お話・赤松宏一さん(当時一橋大学生)  
日時 3月12日(日)朝9時半開場  
場所 公民館 地下ホール  
連絡先 なんとま (573) 8777

話せばすっきり 傾聴ひろば

家庭の心配ごと、職場の悩み、友人関係など話してみませんか。傾聴ボランティアのみずくがお聴きします。無料。申込は平日のみ。  
日時 3月17日(金)昼1時~4時  
場所 福祉会館 1階コーナー  
連絡先 ボランティアセンター (575) 3223 朝9時~夕5時

ラグビーをやってみませんか!

昨年より始まったラグビースクールで、中学生からシニアまで一緒に汗を流しませんか。もちろん女性も大歓迎。初心者から大ベテランまでチームを。体験に集まれ  
日時 3月18日(土)朝10時  
場所 第三小学校 芝の中庭  
連絡先 高坂 (885) 0655

加害者としての戦争を語る会

1932年旧満州(中国東北部)の撫順炭鉱近くの村で日本軍が多数の中国人を殺害した平頂山事件について、駿河台大学教授の井上久士先生にお聞きします。  
日時 3月19日(日)昼1時半  
場所 公民館 集会室  
連絡先 上村 (181) 8371

「この世界の片隅に」を深く読む

昨秋公開後、広い世代に感動を与えている映画「この世界」は数多くの伏線や社会的背景がさりげなく描かれています。それらを読み解き作品の主題に迫ります。  
日時 3月25日(土)昼2時  
場所 公民館 集会室  
連絡先 植松 (783) 3383

フルート・桜音の会

まず発音練習・音程練習、各パートが一緒に決められた音を出す。先生がそれぞれの音を確認していく。息を入れる角度、その強弱により同じ音でも微妙に違うらしい。「少し低い」「もう少し」「そうそうそこ」と、音を安定させるのは大変そうだ。

先ごろ年1回のコンサートが終わり、次の老人施設訪問に向け新曲『子供の情景』『ユーモレスク』『新世界』『軍隊行進曲』に挑戦中。半年かけて仕上げるとのこと。4つのパートごとに、あるいは一人ひとりに繰り返し繰り返し指導していく。やがて各パートの音がピタリと合ってしなやかに流れ出す。「合った!合った!」と手をた

たいて喜ぶ先生。河野先生は国立音大卒のフルート奏者、おおらかで明るいご指導がこのグループの豊かな音色を引き出しているのだろう。フルートは単旋律なので、音が重なり合って美しい響きが生まれるのが魅力だという。

曲によりパートが変わった方、ちょっと迷ったか「あれ?どこだっけ?」スローな表現に「親指のつちやっただ」演奏の合間に聞こ

えてくる声は楽しげだ。

「各パートの中で音程が合い、全体で音が合うとアンサンブルが楽しい」「より高い完成度をめざして練習しています!」等々。「演奏を通して自分の上達具合がわかるのがいいですね」と代表の西村さん。

現在会員は男女6名ずつの12名。国立にはフルート好きが多いと聞いています。是非一緒に!ただ今会員募集中です。

練習は富士見台地域防災センターにて。第2、4火曜日の午後6時~8時。  
連絡先 武田 (217) 7112  
〈文・写真 井上恵子〉



「合った!合った!」